

# 第1回里山学びと交流の森検討会会議録要旨

日時

平成13年11月15日(木) 午後6時30分から午後8時50分まで

場所

愛知県産業貿易館西館9階第2会議室

出席者

大竹勝委員、賀来宏和委員、加藤裕重委員、加藤倫教委員、木村光伸委員

鈴木敏明委員、津田美知子委員、出口なほ子委員、波田善夫委員、林進委員

馬宮孝好委員

・開会

## 1. 委員・オブザーバー紹介

事務局

・「里山学びと交流の森検討会設置要領」を説明

## 2. 座長の選出等

事務局

・無記名投票の結果、木村委員6票、林委員5票であり、本検討会の座長は、木村委員に決定した。

## 3. 議事

木村座長

・この検討会は、「愛知万博検討会議」が提唱した会議体の一つであり、まず、「公開の原則」を確認しておきたい。

・今日の議事録署名は、大竹委員と賀来委員にお願いしたい。

林委員

・第一点、徹底した議論と合意のプロセスをお願いしたい。

・第二点、次回の会議の日程を必ず今回決めていただきたい。

・第三点、公開の原則に関わることで、自然保護関係の傍聴者や地元住民からの議案提出権を認めていただきたい。

・もう一点、この会議は、「愛知万博検討会議」での合意のプロセスに拘束されていることを再確認しておきたい。

## 木村座長

- ・傍聴した市民の意見を受けとめ、議論に乗せることもやれると思う。
- ・欠席した委員がいれば、議事録だけではなく、事実経過等々を踏まえた説明をお願いしたい。

## 加藤（裕）委員

- ・林委員の意見で、地元住民として議案提出権があるのは、いいと思う。

## 木村座長

- ・全面公開原則を守りたいので、FAX等で寄せられる意見、このフロアからの意見も受け止めていきたい。
- ・議論の流れの中で、傍聴席の方々の意見を聞く時間をつくりたい。

## 博覧会協会

- ・「国際博覧会基本計画骨子」について説明

## 事務局

- ・「里山学びと交流の森づくりの方向性（たたき台）」について説明

## 木村座長

- ・今の説明は、県からの検討依頼と、県が考えている「里山学びと交流の森づくり」の方向性の提示であったと理解する。
- ・議論の前提として、現況の理解をしておく必要があると思うので、具体的に「海上の森」がどうなっているのか、いつもきちんと理解をしながら進めていきたい。
- ・もう一つ、「海上の森」という固有の場所における保全と活用についての概念を、きちんと明確にしなくてはならないと思う。
- ・今の県からの説明を踏まえて、意見交換をしたい。

## 林委員

- ・県がたたき台を組み立てるとこういうものだと思うが、これまでの準備会に出された資料や、地元からの要望などが、バックデータとしてここにどう盛り込まれており、なおかつ県が行政として一つの案をまとめるという、その関連性が全然読めない。
- ・準備会の生き生きとした、生々しい議論をバックにせず、「『里山学びと交流の森づくり』基本的取組みの方向性」が出されても、これを議論しようがない。

## 鈴木委員

- ・私達も海上独自の案をつくりたいと思っている。
- ・海上の半分の人が協力して、土地を売って出て行き、私も強制執行がかかったら協力しようと思っていたが、その後オオタカが出たため、結局海上の家が残ってしまった。
- ・この10年間のもつれた地元の間人間関係を修復する過程を抜きにして、議論は出来ない。

- ・自然保護団体は、かなり理論武装しており、コントロールしない限り、海上の人間秩序や空間的な秩序がむちゃくちゃになってしまう。
- ・しかも、自然保護団体の人達の意識は、自ら善なる存在であり、彼らが大量に入って来ること自身が負荷であるという認識は、考えていない。
- ・私達は、地元の人間関係を修復しつつ、同時に例えば県があり、市があり、地元の自治会があり、私達がある、というしっかりとした秩序関係をつくっていきたいと思っている。
- ・瀬戸は、もともと国際交流のような都市であり、そういう意味では、排他的ではない。
- ・準備会で気づいたのは、私達も何らかの形で発信をしなければ、単なる協力者で終わって、海上の人間の持つ誇りや何もかもが、無くなって終わるのではないかということである。
- ・私達は、海上から出て行った人と残った人との人間関係を修復していかななくてはならないし、地域についても、やっと山口と海上の人間関係を回復しながらやっていけるという状態である。そして、私達も山口の一員であることの誇りも持っている。
- ・自然保護団体の人も、空ばかり見て歩くとか、地元の葉っぱを見て歩くというだけではなく、地元で生活してきた人間さまというものを、正しく評価し、海上の人間から学んで欲しいと思う。

#### **加藤（裕）委員**

- ・県のたたき台には、今までの生々しいものが足りないとは思いますが、限られた時間でテンポよくつくり上げるならば、足りないものは足していき、外さなければならないものは外し、間違った矢印があったら変えていくように出来ないものかと思う。

#### **馬宮委員**

- ・今日は、これまでの意見を参考にして、県が考える海上の森でのベストの保全方法が出されただと思うが、それはあくまで参考だと思う。
- ・それぞれの委員には、海上の森を今後どうしていったらいいか、という熱い思いがあると思うので、県のたたき台だけを対象にして議論するというのは、一方的でベストの方向が分からない。
- ・それぞれの委員に色々な提案があると思うが、それが今まで一度も出たことが無いので、最初に海上の森をどう思っているのかを出して欲しい。
- ・県の案といえども、委員の案と同じ立場の一つの案に過ぎないと思うし、県の案についてどうこう言っても、それぞれの案が表面に出ないのでは、結局時間が長くかかるばかりだと思う。

#### **林委員**

- ・私が里山に関わってきて、取り戻すべきだと思うのは、まさに里山に関わろうとするその人間であり、そこに関わる人間的な感性も含めた、社会のあり方である。
- ・里山とか、農業そのものを卑しめてきたのが、今までの過去の日本の経済で、農業を蔑視してきた。
- ・その拳句の果てが、今になって「里山が放置され、荒れている」と言われているが、私は「た

だ勝手に里山が荒れているのではなく、荒れているのは人間の心だ」と、ずっと言い続けている。

- ・（博覧会では）世界に対して、日本の里山がどういう意味を持っているのかを、発信しないと意味がない。

- ・里山というのは、一つの大きな時代を転換させる戦いだと思うし、それを里山を拠点にして取り戻していこうと思う。だからこそ私は、言葉遣いだけではなく、「汗を流せ」と言っている。

- ・昔の農民は、本当に里山に関わらなければ、暮らせなかったのと同時に、守らなければ周りの人達の安全も守れなかったので、諦めにも似た自然観があった、それをもう一度取り戻したい。

- ・そのために何をアピールしていくのか、博覧会で何を訴えたいのか。ここを「博覧会の原点」と言うのであれば、行政も市民も計画を出して、それを付き合わせていい計画に出来ませんか、というのが、「万博の原点」にあるべき。

- ・今のままでは、「行政が出して、ちょっと足し算引き算やって下さい、というのが原点だ」と言わざるを得ない。それは、決して「愛知万博検討会議」の合意事項ではあり得ないので、「このプロセスそのものを、もう一度見直せ」と言いたい。

- ・我々は、里山、森づくりに関わる社会のプロセスを組み立て直すチャンスとして、万博を使えばいい。

- ・だから、里山に関わろうとする市民は、「理性を支える感性というものを自然の中で養う」ということを共有しないと、博覧会で世界に対して、訴えることにはなり得ない。

- ・別に市民会議を組み立てて、そこで市民が意見を出したとしても、いつまでたっても、対立関係にしかならないから、この場に市民の企画を全部一度に集約するプロセスを組み立て、県は県の計画を出し、それをこの会議で調整していくことが必要であり、だからこそ、公開の原則を守らなければならないし、それにこだわる。

## 木村座長

- ・それぞれの委員が「海上の森」についてどういう思いを持って、どう取り組もうとしているのか、これは徹底的にやらなければならないと思うが、今日出てきた県のたたき台は、ワンオペゼムにはならない。

- ・今日は、徹底的に県の意見を聞いて、それを踏まえて、次回みんなが意見を出し合う場所をつくりたい。

- ・そういう意味では、検討会を頻繁に開く方向になっていくのだと思う。

## 津田委員

- ・愛知万博のオリジン（原点）として海上地区があるが、そのオリジン（原点）をつくったのは、鈴木さん達だっただろうと思う。

- ・地元の方から、徹底的にお話を聞いたり、話し合ったりしないことには、毎回行っては戻り、行っては戻りになるような気がする。

## 木村座長

・県は、県として提案しているので、それを踏まえたうえで、私どもとどう噛みあうのか、どう関係し合えるのかきちんとしていきたい。

## 愛知県

・基本的に、責任を持ってこの仕事を進めるのは県であり、たたき台がワンオブゼムであるとは理解していない。

・県は、主体的に責任を持ってやっていくので、皆様にたたき台を議論していただいて、より良いものにしていただきたい。

## 林委員

・「主体的」というのは、自分だけでつくるのが「主体」ではなく、市民が色々な要望や意見を出してきて、それをうまくまとめながら、そこに県が行政としての責務を果たすのが「主体性」である。

・県の案がワンオブゼムになるのか、ならないかというのは、これからの議論だと思うが、準備会で提案されてきたこと、あるいは「海上の森」に関して議論されていることを整理して、それを踏まえて、県はこういう方向性を出した、という流れをつけていただきたい。

・市民からの提案には、時には極端なものもあるが、それも一つの意見であり、どういう議論の状況なのかを踏まえて、県が「私達は、こう整理し、それを踏まえて、これをつくりました」というフォローが欲しい。

## 愛知県

・準備会の議論とか、様々な動きを受け止めていない面があるとしたら、申し訳ない。・  
そういうことを、さらにこの隙間に入れていただいて、より良いものにしていただくため、色々な議論をしていただければ、ありがたい。

## 木村座長

・隙間に入れるだけではなくて、これを組み替えていくような、活発な議論を是非やりたい。

## 鈴木委員

・この10年間の動きの積極面も、正しくつかんでいかなければならないと思う。・この間、海上から出て行った人と集落の中の隠れ屋地区で石の彫った跡を覗いてみて、昔の人達がいかに悪戦苦闘したかが分かった。

・今日私のつくった資料で、昭和20~30年代の海上の子供達を見てもらうと、今の子供達が遊び足りない部分が、かなり書いてあり、それは今の子供達にとって見れば、大変有意義なことだと思う。

・自然保護団体が、県なり私達地権者なり、山口自治会に有機的に結びついていければ、大きな力になってくるので、県民の民度、我々の地域の民度も飛躍的に上がるだろうと思う。

・多度神社で走り回っていた馬道具があり、それには、蒔絵で書いた月のマークや一部古文書

も入っており、万博時にそういうものを再現したら、もっと誇り高く生きていけるのではないかと思う。

- ・一言で「海上の人間」と言っても、80~90歳代の人が見る「海上の人間」と、戦後に育っていた僕らとは、「海上」というものが違うということが、（海上町の生活誌の）調査活動の中で分かった。

- ・瀬戸市内に散在している、70~80歳代の海上出身の人達に特別委員として、是非聞き取りの中心になっていただき、彼らの命ある限り、誇り高い人生の生き方を語ってもらいたい。

- ・私達の親達が、海上川を堰き止めて臨時のプールをつくってくれた、そういう川遊びが、私達の人格形成に大きな影響を与えている。

- ・僕がイメージしている「海上」というのは、非常に秩序が保たれている、そういう「海上」だが、世の中の発展の中で、変化していくのもよく分かっている。

- ・私の意見は、いたずらに狭く集落を考えて、他人を排除するという事ではないが、秩序は必要だと思う。

- ・県のパイロット事業で、里山づくりのチャンスに恵まれなかった人達が、収穫の時は、土砂降りの雨でひどいものだったが、それでもあの喜んでる顔を見たら、あの企画は間違っていないと思った。

- ・当初、あの企画そのものに懸念があったが、県が窓口になった時には、争いが起きない、主導権争いが無いというプラスの面もあるので、県という存在が、我々の中にも正しく認知され、意識され、県の方も私達を地域の存在として見ていただくことになれば、ありがたい。

- ・国営公園の会の人達も、あの土石流を修復してくれた、そういうことを、田舎の人間というのは、たった一度の恩義でも忘れない。

- ・そういう点で、人間関係をつくっていくプロセスが、また楽しいということもあるので、私達の秩序や意識を踏み越えるような動きがあると困るが、本当は交流もしたいが、ただ秩序が欲しいと思っている。

- ・ここにいる専門的な先生の難しい高度な話を、地域の住民が完璧に理解出来て、しかも完璧に使いこなせて、しかも実態的にあの集落でも活用する、そういう地域をつくっていきたい。

## 馬宮委員

- ・県の方が、「この案は、県が主体的に出したのであり、間に差し込んで欲しい」と言われたが、それではやる気にならない。

- ・これからの行政というのは、市民が関心を持って、やる気がないと出来ないのであって、万博の場合も検討会が、市民参加による非常にいい形であり、万博も良い方向に向かっているのだと思う。

- ・この海上の森というのは、里山として循環型社会の見本のようなもので、県民は、非常に関心を持っている。

- ・それぞれの方が色々な意見を持っており、準備会でもそうことを言ってきたが、このたたき台には、ほとんど入っていないので、もう一度それぞれの考えを述べたらいいと思う。

- ・私どもの会で「マスタープラン」を苦労してまとめたが、それを説明するチャンスが欲しい。

- ・それぞれの方が、海上の森に対して色々な思いを持っており、それぞれの案は、どこかでぶつかる部分もあると思うが、色々な市民が集まっているので、それは当然だろうと思う。
- ・愛知県、瀬戸市全体の市民が、本当に喜んでこの海上の森にやって来る、そういう海上の森として保全するためには、そういう調整をすることが、一番有効なことだと思う。
- ・今回は、他の方も提案書を前もって出していただき、それを会議の前に、配っていただくと非常にありがたい。

#### 木村座長

- ・具体的に、それぞれの人が感じていることをベースとして出されたアイデアを、これから議論していかなければならない。

#### 波田委員

- ・この基本方針は、非常にスタンダードで、普通につくればこうなるというスタイルだと思う。悪く言えば、特にユニークなところがない。
- ・この案を全部読んで、足りないものがあると思ったのは、「人間」のことで、これは一部分だけ差し替えたなら、どこの里山事業でも使えるというタイプのものだと思う。
- ・一番抜けているのは、「人間」というキーワードで、一番困るのは、どこの行政でも箱モノはつくるのが簡単に出来るが、とにかく人間を育てることが出来ない。この案にも、「ガイド付きの自然観察会」と書かれているが、一体誰がやるのだという感じで、その部分がものすごく欠落している。
- ・人間を育てるということは、非常に大切だが、時間がかかるので、この時間のなさにおいて、人間を育てるという部分が、この程度の行数でいいとは思わない。
- ・人間を育てるという話の中で、こういった事業をやるのにメインになるのは、地元の方で、特に地元の古老の方から聞き書きをしていない、僕はそこが非常に欠落していると思う。
- ・これには、「学び」とか書いてあるが、学ぶためにはソフトが大切で、一番重要なソフトを持っているのは、地元の古老の人達で、一升瓶を下げていって、炉端のほとりで話しながら、というソフトがものすごく重要であり、そうでないと、この企画そのものが成り立たないと思う。
- ・全国どこへ行っても、同じ里山ではなく、ここは「海上の里山」というタイプの話で、是非とも大きな柱として考えていただきたい。
- ・それから、ソフトを増やしていくことが、人間を育て、非常にいいものが出来てくるので、そのソフトを育てる作業というのが大事である。
- ・自然を理解するという調査活動とノウハウの蓄積を早急にやるという部分が、どこにも出てきていないので、たたき台を最初に読んだ時、もう地域住民はいないと思った。
- ・ソフトウェアを吸い取っていただくために、地元の方に参加していただくということを、一つ大きな項目として立てて、基本方針の中に盛り込んでいただきたい。

## 木村座長

・里に実際関わっている人、あるいは里に関わってきた人が、どうしていくのかという活動や思いを、どう踏まえていくのかについては、皆さん大体同じようなところへきていると思う。

## 林委員

・愛知を中心とした東海地方の里山保全活動の特徴は、広範に市民講座という形式で、充実して実行されているケースが非常に多い。

・それを「名古屋方式」とか言っているが、徹底した自己学習システムでやってきており、必要な人材は、まず自分達で育てようとしている。

・私の信念で、地域が充実している活動は一体何か、を一言で言えば、「住民が、集団的に自己学習するシステムを組み立てること」、これが地域が充実する住民活動の原点であり、目的であり、最終成果であると思っている。

・今回の「里山学びと交流の森づくり」の一番の魂は、そこだと思っている。人間が健康で生きていくためには、「遊び」の要素だけではダメで、「学び」の要素がなければならず、また「学ぶ」ということは、まさに生涯学習であり、高齢化社会にも対応している。

・もう一つ「交流」とは何か。人間がある場所を共有するのも、一つの「交流」だが、そうではなく、世代を超え、あるいは地域を超え、「交流」というのは、「伝承」であり、「伝承」抜きの「交流」はあり得ない。

・この「里山」というのが、何だったのかを考えてみると、明治の初めに日本が開国し、欧米の知識人が、随分日本に来ており、彼らが本国に書き送った手紙には、「日本の国は、素晴らしい。民度が高い」と書いてあった。なぜかということ、「棚田を切り開き、素晴らしい技術がある。あの狭い国土を使い尽くしている。しかも非常に美しい景観をつくり出している。これほど素晴らしい技術と民度の高い国と戦争したら負ける」とそう書いてあった。つまり、日本には、今では、もう忘れられているような歴史と、再現出来ないような優れた技術があり、日本の里山というのは、そういう拠点を持っていた。

・21世紀にもう一度それをよみがえらせることは、決して古いものを持ち出すだけではない。日本の新しい進路は、一体何なのか、もう一度自分達で考えてみて、それを支えていくのは、「学び」あるいは「伝承」であり、まさにオンリーワンの目的として、「里山学びと交流の森づくり」にかけるしかないと思う。

・だから各地の色々な活動の集大成を、ここでやってみて、人づくりをしていけば、「里山学びと交流の森」の意義が、もっとはっきり、生き生きしたものとして出てくるのであり、私は、そういうことを期待したい。

## 愛知県

・ハードについては、私どもの土地の所管の問題とか、限界はあるが、色々ご議論、ご指導いただきたいと思っている。やはり私どもが弱いのは、ソフトの面であり、特にご議論いただければと思っている。

・万博時における「ガイド付き自然観察」の考え方は、現在あの森で活躍されている自然保護



団体の方が、かなりおられるので、そういう方をお願い出来たらと思っている。

- ・また、万博後については、拠点施設をつくって、そういう人達を指導していくとか、研修していくことを考えている。
- ・もう一点、海上の成り立ちについては、二～三年前から現地の方をお願いしてやっている調査があり、この場でも説明したいと考えている。

#### **木村座長**

- ・委員の方々から出た意見を踏まえて、方向性のたたき台をどんどん叩いていくし、私ども委員がどう考えているかを、もう一度きちんと議論し、摺り合わせていく時間を、次回にはつくりたい。
- ・今日は、フロアの方からまだ全然意見を聞いていないので、一人だけ。

#### **傍聴者**

- ・他の先生方と同じ意見を持ちますが、ただ一つ、「里山」という事柄の理念が、この文面では、ほとんど感じられない。
- ・「里山」って一体何なのか、なぜ「里山」が守られなければならないのか、そして「この海上の里山には、どういう特徴があって、だからこうしなければならない」という、その理念づけが、この中では、ほとんど感じられないので、そこを県の方にきちんと考えていただきたい。

### **4 . 報告事項**

#### **事務局**

- ・里山学びと交流の森づくりパイロット事業について報告

#### **森林保全課**

- ・県民参加の森づくり事業について報告

#### **木村座長**

- ・今日の予定時間を過ぎましたので、これで終わりたい。
- ・次回は、出来るだけ近傍にやりたい。

#### **波田委員**

- ・どういうスケジュールなのかをお伺いしないと速度がつかめない。

#### **事務局**

- ・万博が開催される 2005 年までに、森の地区において自然観察が出来るよう整備したいという希望を持っており、そのために、来年の春頃には、ある程度の方向性を示していただければありがたいと思っている。

### 木村座長

・今日の意見は、森だけ切りはなして、先にプランニングするという事ではないので、少し間隔を詰めてでも、回数をやらなければ前に進めないと思っている。

### 津田委員

・次回どんなことを議論するのか、事前に整理しておいていただきたい。

### 木村座長

・今回県からたたき台が出ており、それについて、色々な視点からのご批判なりご指摘があったので、今回は、それに基づいてリバイス（改訂）したものを出示していただきたい。

・それと、この海上の森でどういう森づくり、あるいは里づくりを考えていくのかについて、次回、それぞれの方が発言する場が必要だと思う。

・それ以外に、やっておきたいことがあればご意見をいただきたい。

### 林委員

・やはり森のデザインの問題があり、やり方としては、地図で場所を特定してやるやり方もあるが、そうではなくて、大まかな位置を押さえておき、言葉で振り分ける、その絞込みをかけていき、それで議論していくポストイットを貼っていくやり方もある。そうやって、だんだん絞り込んでいけば、何をやるかとするのか、森に対してどう手を付けるのか、どう保全するのかが、見えてくると思う。

・ポストイット方式だったら、全員が参加出来て、三回ぐらいやれば、かなり早くまとまるので、私達が森をデザインする時は、そういうやり方をしている。

### 木村座長

・その前の段階で、言いたいことを出示してしまおうことが必要だと思うが、いきなりそこへ入れるのか。

### 林委員

・それでいけると思う。断片的でも、どんどん意見を出してみればいい。

### 事務局

・議論の中で、そういう色々な思いを議論していただくのは、12月の中旬以降なら開催出来る。

### 木村座長

・12月中旬以降で予定をするので、事務局に日程調整をお願いしたい。

・それでは、今日はこれで終わりにさせていただく。

・閉会